

事業所職員向け

児童発達支援自己評価表

この児童発達支援自己評価表は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価をしていただくものです。 「はい」、「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」、「課題や改善すべき点」等について記入してください。

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4		・法令で定められている設備基準を満たしている。 ・利用人数が多いグループは、2部制に分けて療育を行っている。
	2 職員の配置数は適切であるか	4		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	4		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	4		・感染対策のため、換気と消毒の継続を行っている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	4		・職員相互に意識しあって、療育について振り返りをしている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	4		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	4		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1	3	・第三者による外部評価は行っていないが、運営委員会で委員の皆さまからご意見をいただいている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	4		・施設内研修のほか、外部研修（Web研修）に参加している。また、スキルアップのため、個々で研修に参加している。
適切な支援	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	4		・相談支援員と一緒に新規利用の際、サポートファイルを活用し、計画相談を行い計画を作成している。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4		・NCを活用し、利用児童の状況を把握している。また、心理師による田中ビネ、新版K式の結果を参考に支援を行っている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4		・個別支援計画に明記している。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4		

支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4		・主担当が中心となって活動を設定している。 ・毎月継続的に行う内容、取り組みたい内容を話し合い決定している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4		・月ごとに活動内容を変更している。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	4		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	4		・基本は6カ月で見直しとなっているが、変化があれば、6カ月経過しないなくても対応している。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	4		・日程調整の関係によりサービス担当者会議が行えていない子もいるが、相談専門支援員とで随時、直接情報交換や協議を行っている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	4		・母子保健の部署が主催する「ことらっこ教室」に参加し、母子支援を行っている。また、必要に応じて関係機関で共有し支援できる体制を整えている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	4		
関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	3	1	・現在、医療的ケアが必要な子はいないが、保健師との連携や「医療的ケア児等の未来を考える会」を通して体制を整えていきたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	4		・保育所等訪問支援事業を活用し、並行通所先の先生と情報共有や支援内容の方向性の確認を行っているが、中には共有が難しいケースもある。また、必要に応じて双方の施設の見学や電話連絡を行なながら対応している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	4		・2月、3月にかけて本格的に実施。 ・年度末に年長児を対象とした就学児サポート会議へ参加している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	1	・他施設と交流及び助言を受ける機会はなかったが、他事業所を並行利用しているお子さんについては、事業所間での情報共有を行っている。また、療育センターのSTの助言や研修会に参加し、スキルアップを図っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	3	・療育の中でその機会は設けられておらず、ほとんどのお子さんが就園しているため事業所として交流することもなかったが、保育所等訪問の中で接することができた。
支援の提供	29	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	3	1	・施設長、児発管が参加している。

保護者への説明責任等	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4	・個別課題終了後やモニタリング時に保護者様とお話しする機会を設定している。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	1	3 ・普段の療育の中で、相談を受けたりすることはあったが、ペアトレには今後つなげて行けるようにしていきたい。 ・事業所内では実施していませんが、外部主催の研修会への案内を行っている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	4	・契約時に説明させていただいている。また、不明な点は随時職員が説明するようにしている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	4	・個々に支援内容について説明している。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	4	・年2回定期的なモニタリングを行っている。また、担当に限らずどの職員でも相談対応できるようにしている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	1 ・父の会を開催して父同士の繋がりを作る機会を設けているが、参加人數が少ない。また、母親が集まる場所の提供ができないため、保護者様が参加しやすい方法での学習会等の機会を設定したい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	4	・年2回のモニタリングの他に、随時希望に応じることを周知し対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4	・月1回すぐすぐだよりを発行。必要に応じて連絡事項や行事等のお知らせを、おたよりやメール配信システム（マチコミ）で発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	4	・職員は、情報セキュリティに関する研修を受講している。個人情報は鍵付きキャビネットに収納し、日頃から個人情報の取扱いに配慮している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4	・お子様には絵カード等の視覚提示で意思の確認をしている。言葉だけのやりとりではなく、紙面を使う等保護者様に合わせた情報伝達を行っている。
非 ^共	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	4	・5月にコロナ感染症が5類になったが、各行事にともに保護者の人数制限をなくすまでで、地域の方の招待や関わる活動は実施できなかった。 ・今年度から利用児以外の方にも利用できるようスヌーズレン体験の周知を始めた。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	4	・月1回防災訓練を行っている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4	・パワーポイントを使用し、地震や風水害について子どもたちにわかりやすく伝えている。また、メール配信システム（マチコミ）を使用した訓練も行い、非常時に備えている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	4	・利用開始時に保護者様から情報提供をしていただいている。

申請等の対応	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	***	***	・食事の提供はしていない。利用開始時に保護者様へアレルギーの有無を確認している。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4		・想定ヒヤリハットもその都度記入し、防止に努めている。 ・危険な事例があった場合、報告書に記載し、職員会議等を通して改善策を共有している。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4		・制度に基づき、必ず年1回は研修を行っている。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	4		・現在、身体拘束を実施せざるを得ない状況なケースはないが、研修を行い、職員間で共有している。